

第2部会	分野	環境	※◆は第1回目の発言
A 欄に関する意見メモ			C 欄に関する意見メモ
<p>《現基本構想の進捗検証・評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○区の10年間の取組は評価できる。一方で、総合計画の施策ではソフト対策の具体的な取組が少ないと感じる。 ○区はこの間の取組は、住宅都市という特性を意識した取組としてよくやっていると受け止めている。 ○ごみ減量の対策は、他の区と比べたら進んでいる面が多いと思う。 ○レジ袋削減の取組によって、使用率が大幅に減っているのではないかと。これは区が区民や店に対して取り組んできた成果だと思う。 ○市民農園や農業体験は素晴らしい取組だと思う。 ○杉並区民の一人1日当たりのごみ排出量が23区でも少ないのはこれまでの取組成果 ○これまでの取組で、区民の意識は23区では高いかもしれないが、多摩地区と比較するとまだ低いかもしれない。 ○家庭の廃油回収、食品ロス削減の取組は非常に良いスタートが切られている。 <p>《今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国がカーボンニュートラルを宣言。自治体にも2050年までにCO2排出の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の拡大を呼びかけていく考えを示している。区としてもこれを目指す必要がある。 ○環境が政治・経済・福祉等につながる重要な教養になり、環境への取組の重要性が世界共通のものとなった。 ○SDGsが掲げるように「一人として置き去りにしない」という精神が重要。(ただし、これは全分野で共通) また、環境については社会や経済の在り方とともに広く考え直す必要がある。 ○環境への意識が高まっている。 ○気候変動・温暖化を要因とする様々な自然災害を引き起こしている。 			<p>《基本的な取組の方向性》</p> <p>【気候変動・温暖化】 【2-1の①②③該当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気候危機(災害や暑さ・寒さ)は、健康や生命と関わる。人の生死を左右するリスクを減らすための被害軽減策を推進してはどうか。 ○電気の使い方として避難所などの再生可能エネルギー100%を目指して、自治体として何ができるか研究することが大事。 ○危機管理の面からもエネルギーの地産地消や蓄電、がれき撤去のためのオープンスペースの確保など重要視すべき。 ○熱中症対策は、医学の観点から考えがちだが、建物の断熱改修など、環境の視点からのアプローチもある。 ○シェアモビリティの拠点としてのマルチモビリティステーションの整備計画がヨーロッパで進んでいるが、今後、車の利用を減らして都市における排気の問題を考える上で、交通施策との組み合わせが重要。 ○温室効果ガスの排出ゼロを目指すこととあわせて、原発が推進されることが気になる。安全安心な暮らしの点から、原発に頼らない再生可能エネルギーなどについて、区の考えを出してもよいのではないかと。 <p>【2-1の④⑤該当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境への取組が健康に結びつくということで意識を持たせるなど、区民の行動を促すような取組が次の10年には必要。 ○環境対策に興味があっても普段の暮らしへの活かし方がわからないので、多世代が集まって考えることのできる居場所があれば意味があるものになる。「若いうちから」がキーワードになる。 ○環境は協力的な視点がないと進まない。北欧のように小学生ぐらいから国を挙げて学ばせる仕組みが必要ではないかと。 ○子どもへの教育が親に影響を与えるケースがある。長野県のがん教育の取組のように、子どもを巻き込み社会を動かしていくというのも一つの方法ではないかと。 ○環境教育は子どもにはよい。一方で大人は地球環境といっても、あまり伝わらない。教育だけでなくインセンティブや規制等により行動を促すことも有効。 <p>【循環型社会】 【2-1の①②③該当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭の廃油、食品ロス削減の取組について、今後伸ばしていくという姿勢を示していくべき。現時点での方法に満足せず、全国の例を参考に、区独自の取組の形として育てていくという方向性があるとよい。 ○リユースの視点をもっと拡充する余地があると思う。 ○杉並区民の一人1日当たりのごみ排出量は23区でも少ない。他自治体よりも高い目標を掲げて取り組んでもよいのではないかと。 <p>【2-1の④⑤該当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業者の力を使ってやれることがある。 ○世帯の細分化により一つのこととみんなで取り組むことが難しくなっている。まちのごみに着目し、みんなでまちをきれいにするを当事者として考えることで、コミュニティの形成が図られるのではないかと。今後10年の中で考えていければ杉並はよくなる。 ○実感を持ってもらうためには分かりやすさが必要(例えばレジ袋有料化)。デザイン志向を取り入れて区民にわかりやすく環境、循環型社会を伝えることが大事。
<p>B 欄に関する意見メモ</p> <p>《目指すべきまちの姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住みやすく、快適な暮らしが環境問題とつながっていることを実感できるまち ○一人ひとりの環境に配慮した取組が、地域だけでなく、世界を変えていけると感じられるまち ○「質」の高い自然環境、生活環境を次世代につないでいけるまち ○環境負荷が少ない社会を実現し、気候危機から区民の健康と生命を守るまち ○誰もが、自然共生社会について学び、体験し、行動できるまち <p>《目指すべきまちの姿を設定した考え方など》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化の問題は国際的に進めていかなければならないが、その中で区の施策としてどの範囲で取り組むかを考えなければならない。 ○SDGsの前文に「ひとりとして置き去りにしない」とあり、その精神を重要なものと考えたらどうか。 ○SDGsの前文にある「一人として置き去りにしない」という原則や経済、社会、環境の3本柱を統合的に考える必要性についての記述は、「環境」を考えるときには、社会や経済の在り方とともに広い意味で考え直すということになる。 ○環境は全ての人がわからなければならない最低限必要な教養であり、杉並区民一人ひとりがしっかりと取り組む姿勢が必要。 ○生活者目線だと、CO2削減と言われると貢献の仕方がわからないが、ごみの削減と言われれば、イメージしやすい。見える化が大事である。 ○SDGsをわかりやすい言葉にできないか。持続可能性という言葉では伝わらない。魅力的な言葉に創り変えられないか。これからの議論の課題にしたい。例えば100年後も残したい社会、子や孫に残したい社会など。 ○気候危機は健康や生命に関わる。環境が健康に結びつく。 ○多世代が集まって考えることのできる居場所があれば意味があるものになる。「若いうちから」がキーワードになる。 ○環境施策と都市計画は密接につながっているものである。 ○区民に分かりやすく、循環型社会を伝えることがグリーン社会構築につながる。 ○みどりとの共生 			<p>《具体的な手段・方法、取組など》</p> <p>【気候変動・温暖化】 【2-1の①②③該当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○被害軽減策として、建物の断熱改修に力を入れてはどうか。特に既存の建物を中心に断熱改修を進めてはどうか。まずは病院や介護施設から始めて、効果を見ながら一般家庭に広げるなどの工夫ができるのではないかと。住宅の脱炭素化にもつながる。 ○建物の断熱改修は多岐にわたる効果があり大切である。 ○今後の展開として断熱改修は必要だが、限られた財源の中でどこまでやれるか。 ○既築の断熱改修は、ヒートショックやその他疾病予防に効果があるだけでなく、単身高齢者や老夫婦世帯に多い火災の予防対策にもつながるのではないかと。 ○電気自動車の充電スポット(太陽光発電)を増やす。電気自動車が蓄電池になるような取組は災害対策にもなる。 <p>【2-1の④⑤該当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康・医療の回で出た、地域の居場所を環境対策のモデル基地(太陽光・風力発電、給水スポット、ごみ回収の拠点、区の補助申請の窓口等)にできないか。 ○北欧では、子どもが大人になったときにどのエネルギーを選ぶか、エネルギーを選択させる基礎的な学習をさせている。 ○環境政策には様々なステークホルダーがいるため、進まない。子ども達に様々なステークホルダーの立場(役割)を与えてシミュレーションを行っているスウェーデンの取組が、区でも応用できるのではないかと。 ○可燃ごみの概ね4割程度が生ごみ。生ごみからの肥料を花咲かせ隊に提供するなど、肥料の行先(活用)を考える。 ○廃食用油の回収拠点を増やすことで、循環型社会の象徴になる。 ○回収した廃油をバイオ燃料にしているとのことなので、その燃料で超低速のミニバスを走らせるなど「見える化」して大勢の区民を巻き込んでいく工夫が必要。 ○リユースが必要とされるのは、ベビーカーやベビーベッド、車いすなど子育てや介護の分野だと考える。これを地産地消できるプラットフォームづくりができると良い。知識交換や相談の場にもなり、居場所づくりとも結びつけることができる。

◆暮らしの持続という観点から基本構想の柱には気候危機対策が重要。「気候変動のリスク低減」「地産地消」「地域循環型社会」を基本構想の方向性で示すべき。
○廃棄物、リサイクル、循環型社会の形成をより柔軟に考えていく必要がある。区民と区議会のイニシアティブで始まった取組を大きく育てていくという方向性を示して行ってほしい。

○生活者目線だと、CO2削減と言われると貢献の仕方がわからないが、ごみの削減と言われれば、イメージしやすい。ごみの問題こそ見える化が大事である。

○理念ではなく、自分の生活の中でどうやってごみを減らしていくか。どこまで意識して細かく分別できるか意識の醸成が大事。

◆リサイクルだけでなく、減らす(リデュース)ことについて、区としてできることに取り組んでいくべきである。

【生物多様性・その他】

【2-1の①②③該当】

○みどりの質の向上は大事である。

○みどり=よい環境という認識が広がっており、公園に子ども連れの親子が戻ってきているように感じる。みどり(自然)との共生、今の時代にあった若い人に喜んでもらえる公園整備が必要ではないか。

○生物多様性といったときに、川をきれいにするような取組で、生物がすみやすい川にすることができないか。グリーンベルト(みどりのつながり)も生物が行き来しやすく、住みやすくするためのもの。

【2-1の④⑤該当】

○一次産業(都市農業)を学ぶことは重要である。市民農園や農業体験等の取組は伸ばすような方向で進めて欲しい。

○生物多様性は学習しないと難しい。学べる環境が必要。

【2-1の④⑤該当】

○可燃ごみ・不燃ごみ、資源などの収集ルールは区民に定着し、暮らしに直結するものであるから、枠を大きく変えることを考えるべきではない。

○区には循環型社会がわかる清掃工場があるので、効果的に活用してほしい。

○ごみ減量のキャンペーンは通年になると意識が薄れる。短期間で効果を出すことを考える必要がある。その上で、効果のあるものを選択して継続していけばよいのではないかと。その際、事業者の協力を得ていく。

○横浜市では消費電力が見える化したことで、電力が削減する動きを見せている。区でもごみの状況を町会・地区単位で見える化し、ごみ減量に仕向ける取組があれば区民も頑張れるのではないかと。しっかりと公報や庁内の回覧で示すことが意識を高めるのに重要。

○世代別の環境学習を実施することで、行動変容が出てくるのではないかと。

【生物多様性・その他】

【2-1の①②③該当】

○杉並区の生物多様性地域戦略を策定する。

○森林環境譲与税を生かし、交流自治体に生物多様性が保たれた杉並の森をつくる。

【2-1の④⑤該当】

○農業体験等の活動をしている団体をもっと支援していく。

○環境団体を支援して、子どもだけでなく大人も楽しく学べる機会(自然観察会・生き物調査)を増やす。